

学校法人了徳寺大学  
難病や生活習慣病克服のための最新治療法  
「ストレスフリー療法<sup>®</sup>」を研究発表

生活習慣病をはじめとした、多くの病気や疾患の原因の一つと言われているストレス。現代社会においては、スピード化やデジタル化の加速に伴い、さらなるストレスが溜まる状況や場面も増え、現代人を疲弊させている。

医療と芸術の融合による新たな社会創造を目指す学校法人了徳寺大学では、そのストレスを取り除く、「ストレスフリー療法<sup>®</sup>」を研究・開発している。

11月20日には、日本記者クラブにて「ストレスフリー療法<sup>®</sup>」の科学的効果と有望性」と題して、研究発表が行われた。

この治療法は、遺伝子レベルで人間が本来持つ自然治癒力を活性化することを目的とし、その過程で血流を良くし、体温上昇、血圧正常化、血糖値の改善、心機能の安定などをほかる。その手法は足の裏の特定の体表点に火傷を起こさない程度の温熱刺激を与えると、いうもので、薬物や注射などを使用しない。

この治療法を開発したのは、本大学の理事長である了徳寺健二氏。同氏は、東日本大震災の時に、低体温症の患者の治療・解消が出来ないかと東洋医学を基に、疾患の原因となるストレスに着目、独自の研究をしていたところ、低体温症だけでなく、生活習慣病や難病にも効果があることを発見した。

特長としては、従来の東洋医学とは異なり、明確なエビデンスを伴う補完代替医療で、気の通り道とは異なる、科学的に立証できる刺激ポイントへの治療であるということ。

現在は医療機関で共同研究も行っており、実証データも集まっている。更なる今後の研究に期待が高まる



ストレスフリー療法<sup>®</sup>の開発者  
了徳寺健二理事長